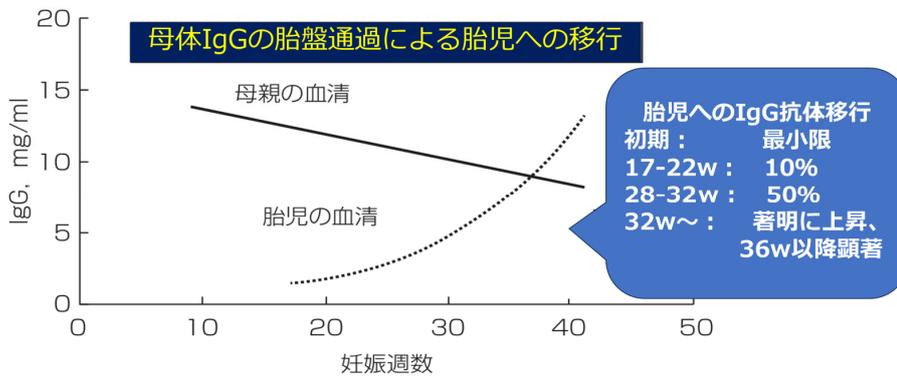


今話題のRSVワクチン(母子免疫)に関連して… Maternal immunizationって何ですか？

- 👉 生後半年以内の赤ちゃんがかかると重症化しやすい感染症に対するワクチンを（主に）妊娠後期のお母さんにうちます。
- 👉 ワクチンをうったお母さんの身体の中ではこれらの感染症に対するIgG抗体（免疫物質）が作られ、胎盤を通して赤ちゃんに移っていきます。
- 👉 お母さんのおなかの中でIgG抗体をもらった赤ちゃんは、生まれてから3か月～半年程度、これらの感染症から身を守ることができます。（重症化予防）

※免疫抑制剤使用中のお母さんや、早産の赤ちゃんに関してもある程度効果はありますが、お母さんからもらえる抗体が若干少なくなる可能性があります。

母親由来IgGの胎児への移行



妊娠中のワクチン接種について詳しく知りたい方はこちらへ



このように、妊娠週数が進むにつれて、赤ちゃんへ移行するIgG抗体が増えていきます。移行抗体が著明に増えていくのは、妊娠32週からといわれています。

日本内科学会雑誌 第102巻 第10号・平成25年10月10日 リウマチ・膠原病患者の妊娠 より改変
Malek et al. Am J Reprod Immunol. 1996;36(5):248-255.
Wilcox CR et al. Front Immunol. 2017;8:1294.

★RSV感染症とは？

- 👉 RSV（RSウイルス）にかかることによっておこる呼吸器感染症のことで、症状は軽い風邪から重たい気管支炎や肺炎まで様々です。
- 👉 特に生後6か月未満のお子さんでは重症化しやすいですが、治療薬はなく、酸素吸入や点滴などを行って全身管理をしていきます。
- 👉 他に早産のお子さんや、肺や心臓にご病気があったり、免疫不全やダウン症のお子さんなどでは重症化する可能性があります。（重症化リスク因子）
- 👉 ただし、RSVで入院するお子さんの90%はRSV重症化リスク因子を持っていません。

★RSV重症化リスク因子をもつお子さんには、毎年RSVの流行期前にパリビズマブやニルセビマブといったRSVに対する免疫抗体をうつことで重症化予防を行います（保険適応）。重症化リスク因子をもたないお子さんは、パリビズマブ/ニルセビマブをうつことは可能ですが、保険適応にはなっていません。かわりに、母子免疫用RSVワクチン（アブリスポ®）をお母さんにうつことによって、生後6か月未満（一番重症化しやすい時期）のRSV重症化予防を行うことが可能です。

- ★アブリスポをお母さんにうってから、赤ちゃんにしっかりと抗体が移行するまで約2週間かかります。
- ★アブリスポは24週から36週までうてますが、セミオープン管理での施設間移動およびパリビズマブやニルセビマブとの兼ね合いから、当院では基本的に34週頃にうっています。（下記）

	妊娠/在胎週数						
	～32	32	33	34	35	36	37～
妊婦				母子免疫用RSVワクチン(34週前後)			
児	パリビズマブ/ニルセビマブ(早産における保険適応)						

※パリビズマブ/ニルセビマブの早産児における保険適応は36週未満

※早産以外のRSV重症化リスク因子をお持ちのお子さんは、アブリスポ接種後でも場合によりパリビズマブやニルセビマブの投与も必要

RSVワクチン抗体移行

